

平成 30 年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

1. はじめに

勤務医を取り巻く環境は、医療安全対策、過重労働、研修医の指導や自らの生涯教育のあり方など、課題が多岐に渡っている。とりわけ、一昨年より取りざたされている「医師の働き方改革」については、厚生労働省、日本医師会等の様々なセクションで議論が交わされ、「時間外労働の上限規制」「応召義務」「自己研鑽」「宿日直」「タスクシフティング・タスクシェアリング」「救急医療」等をキーワードとして、多角的に検討が重ねられてきた。これには「医師の健康への配慮」と「地域医療提供体制の維持」という両立が難しい2つの課題を如何に解決していくかが重要であり、同時に医師不足・地域偏在への対策もしっかりと講じる必要があることは明白である。年齢や性別を問わず、全ての医師が一丸となって向き合い、議論していかなければならない。

勤務医部会としては、いかなる状況にも対応できるよう、勤務医部会幹事会を活動拠点として、種々の問題解決に向け取り組んでいるほか、女性医師の抱える勤務環境の問題を専門に協議する場として、これまでの女性医師WGの在り方を大幅に見直し、26番目の常任委員会として新たに「医師のワークライフバランス委員会」を設置に向けて取り組み、昨年の勤務医部会総会は、医師のワークライフバランス委員会が主催する「医学生・研修医をサポートする会」とコラボレーションし、シリーズ企画として「医師の働き方改革」をメインテーマに開催した。女性医師のみならず、すべての医師が働きやすい環境を整備していくことは医療業界全体にとって重要な課題であり、そのための提言や事業の策定に取り組んでいきたい。

2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来34年を迎えた。部会員数、即ち、B・C会員数は、平成31年1月1日現在、1,942名で昨年より51名の増となり、京都府医師会総会員中、44.4%を勤務医部会員が占めている。ただ、これは全国平均の49.6%（平成30年11月現在での日医集計による）と比べて低い状況にあり、京都府内に従事する勤務医の約3分の2が医師会に未加入であることを考えると、依然、勤務医の組織率が低い状況にある。

過去7年間の勤務医部会会員数の推移

年	勤務医部会員数	京都府医師会総会員数	割合
平成31年	1,942名	4,367名	44.4%
平成30年	1,891名	4,339名	43.6%
平成29年	1,795名	4,243名	42.3%
平成28年	1,713名	4,148名	41.3%
平成27年	1,684名	4,120名	40.9%
平成26年	1,692名	4,125名	41.0%
平成25年	1,707名	4,154名	41.1%

※基準日：1月1日現在

3. 部会役員に関する件

松井勤務医部会長ののもと、幹事長に鴻巣寛氏、副幹事長には出島健司氏、吉波尚美氏、若園吉裕氏、吉田憲正氏にご就任いただいた。今期の役員は以下のとおり。なお、任期は府医役員に準じ2019年6月定時代議員会まで。

役職	氏名	医療機関	備考
部会長	松井 道宣	同仁会クリニック	
幹事長	鴻巣 寛	綾部市立病院	
副幹事長	出島 健司	京都第二赤十字病院	
〃	吉波 尚美	京都市立病院	
〃	若園 吉裕	京都桂病院	
〃	吉田 憲正	京都第一赤十字病院	

幹事	木戸岡 実	京都岡本記念病院	
"	柴 禄郎	京都鞍馬口医療センター	
"	衛藤 美穂	京都第二赤十字病院	
"	吉井 一博	堀川病院	
"	細川 豊史	洛和会丸太町病院	
"	清水 聡	新京都南病院	
"	山口 真彦	武田病院	
"	大越 香江	日本バプテスト病院	
"	谷川 徹	北山病院	
"	森村 達夫	宇多野病院	
"	植田 知代子	京都桂病院	
"	伊勢 健太郎	三菱京都病院	
"	沢田 尚久	京都第一赤十字病院	
"	兼子 裕人	愛生会山科病院	
"	高橋 滋	洛和会音羽病院	
"	木下 智晴	洛和会音羽病院	
"	橋本 哲男	医仁会武田総合病院	
"	瀬田 公一	京都医療センター	
"	中嶋 俊彰	済生会京都府病院	
"	佐藤 文平	宇治武田病院	
"	鹿野 勉	京都岡本記念病院	
"	中田 雅支	京都山城総合医療センター	
"	田中 宏樹	亀岡市立病院	
"	辰巳 哲也	京都中部総合医療センター	
"	川上 定男	市立福知山市民病院	
"	富士原 正人	京都ルネス病院	
"	竹内 一雄	舞鶴共済病院	
"	北森 伴人	舞鶴医療センター	
"	横井 大祐	京都府立医科大学附属北部医療	
"	松村 由美	京都大学医学部附属病院	
"	中西 正芳	京都府立医科大学附属病院	

4. 幹事会・正副幹事長会の開催

30年度は2回の幹事会と3回の打合せを含めた正副幹事長会を開催し、今期の事業内容を検討するとともに、総会の運営等について協議した。

開催日	会合名	主な協議事項
30. 7. 24	正副幹事長会	(1)平成29年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の出席について (2)現勤務医部会幹事からの新勤務医部会副幹事長の選出について (3)第1回勤務医部会幹事会の日程について (4)勤務医部会総会の日程・テーマについて
30. 9. 8	幹事会	(1)副幹事長の交代について (2)平成30年度勤務医部会総会について (3)勤務医部会総会WGの設置について (4)第9回医学生・研修医をサポートする会について (5)「平成30年度研修医ワークショップ in kyoto」の開催について (6)フリーディスカッション、ミニレクチャー
30. 12. 15	正副幹事長会	(1)平成30年度勤務医部会総会の運営について (2)勤務医部会総会の開催について (3)「提言」について

30. 12. 15	幹事会	(1)平成 30 年度勤務医部会総会について (2)第 9 回医学生・研修医をサポートする会について (3)医師の働き方改革の現状について (4)「平成 30 年度研修医ワークショップ in kyoto」の開催について (5)アドリブ症例検討会の開催について (6)2020 年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の開催について (7)フリーディスカッション
31. 2. 21	正副幹事長会・WG	(1)医師の働き方改革の現状について (2)勤務医部会総会の運営について (3)2020 年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の開催について (4)フリーディスカッション

5. 府医各種委員会委員等への推薦

今期、勤務医部会から府医委員会の委員として下記の委員会に幹事を推薦し、勤務医の意見が反映されるよう意見具申していただいた。

◆学術・生涯教育委員会 瀬田 公一 幹事

また、勤務医部会会員数が府医会員総数の 40%以上を占める中で、府医代議員 105 名中、勤務医の代議員数は 4 名、京大および府立医大の計 3 名を加えても計 7 名と、その比率は 6.6%に留まっている。勤務医の意見が府医の会務執行に届きにくい状況であり、今後の大きな課題である。

6. 京都府医師会への入会促進

2016 年度より始まった初期研修医の医師会費無料を受けて、各臨床研修指定病院のご協力のもと、積極的な入会促進を行い、71 名の入会を得ることができた。

7. 乳がん検診などへの出務医師の派遣

地域医療活動として、京都府医師会乳がん検診委員会と調整の上、出務医師の派遣を行っており、今年度は京都市内（1 地区）において 5 回、延べ 4 名の勤務医を派遣した。

8. 第 44 回京都医学会への演題発表

平成 30 年 9 月 30 日（日）に開催が予定されていた第 44 回京都医学会は台風により中止となったが、勤務医からは 60 題のポスター・口演演題発表が予定されていた。

9. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として掲載した。

10. 全国医師会勤務医部会連絡協議会への参加

平成 30 年 11 月 3 日（土）、長崎県長崎市で開催された平成 30 年度全国医師会勤務医部会連絡協議会（長崎県医師会主管）に鴻巣幹事長、上田理事および事務局が参加した。

協議会はメインテーマを「明日の勤務医の働き方を考える ～西洋医学発祥の地長崎からの提言～」とし、シンポジウムでは議論が大詰めを迎えている働き方改革を中心に、医師は労働者か？～応召義務と時間外労働の狭間で～や「医療現場からの叫び」を取り上げ、様々な立場・視点から勤務医を取り巻く環境や行方に関する発表がなされるとともに、フロアからの質疑応答も含めて、活発な議論が行われた。なお、協議会当日には下記の「ながさき宣言」が提案された。

また、翌 11 月 4 日（日）には前年に引き続き「勤務医交流会」が開催された。まず、長崎県医師会の若手勤務医らを中心に「臨床研修と専門医制度とその後のキャリア」「結婚・出産・子育て～働き方改革などと合わせて～」「僻地医療と救急医療～地域医療構想などと合わせて～」の 3 つのテーマについてそ

れぞれ2グループずつ、計6グループに分かれ、GW形式で開催された。各グループでの意見交換を経ての、代表者から行われたテーマに沿った発表では、喫緊の大きな課題に対し真摯に向き合っている様子がうかがえた。

ながさき宣言

我が国の近代西洋医学は1857年に来日したオランダ軍医ポンペ・ファン・メールデノレフオーノレットによりこの長崎の地にもたらされた。ポンペの「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものでなく、病める人のものである」という言葉は長崎大学医学部建学の基本理念として今に伝えられている。この言葉に示されている医師としてのモラル、使命感が我が国の医療を支えてきたといっても過言ではないと思われる。

しかし昨今の「働き方改革」においてはこのような医師の思いが考慮されずに、労働者としての医師の側面のみが強調されて進められている。このままでは「働き方改革」によって救急医療現場の混乱、病院機能の低下などをきたし、地域医療の崩壊を招くことが危惧される。我々は今回の改革において、勤務医が高いモチベーションを持ち続け、地域医療の発展に向けてこれまで以上に貢献できることを願って、次のとおり宣言する。

- 一．長時間労働の是正は重要だが、その運用に関しては医師の特殊性に十分に配慮することを望む
- 一．働き方改革において研修医等の若手医師への教育が萎縮することのないこと、研修医等の若手医師の学習の機会を確保することを望む
- 一．勤務医の過重な勤務実態を広く周知することにより、国民全体の理解が深まることを期待する

平成30年11月3日
全国医師会勤務医部会連絡協議会・長崎

11. 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会への参加

平成30年5月16日（水）、日医会館で平成30年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会が開催され、上田府医理事と事務局が参加した。協議会では「医師の働き方改革」が取り上げられ、市川日医常任理事から概要が説明されるとともに、松本（吉）日医常任理事からは「医師の働き方改革検討委員会」答申について解説があった。

出席者からは「裁量労働制」や「高度プロフェッショナル制度」について、指摘や質問が挙がった。

さらに、日医に対し、本当の意味の働き方改革を議論し、医師が本来の仕事に専念できるよう、事務的な作業のタスクシフティングを始めとする現場の医師の求めを正確に把握し、実現させていくよう要望された。このほか「新たな専門医の仕組み」についてもテーマとして挙がり、松原日医副会長が、これまでの新専門医制度開始までの経緯について詳細に説明。自由度があるマッチングシステムの限界により偏りが顕著となることから、3次登録までの“登録システム”にしたことや都市部への専攻医集中を避けるシステム作りに奔走したことなど、各学会の専門医を制度として一本化してきた実情を詳らかに報告するとともに、資料を用いて各都道府県の研修医・専攻医の出入りを解説した。

特別講演 I

「医師の働き方改革 ～地域医療への影響及び医療機関の経営～」

講師／公益社団法人 日本医師会 副会長 今村 聡

最終学歴

昭和 52 年 3 月 15 日 秋田大学医学部卒業

ご経歴

昭和 52 年 6 月 1 日 三井記念病院研修医

昭和 54 年 4 月 1 日 神奈川県立こども医療センター

昭和 58 年 4 月 1 日 浜松医科大学助手

昭和 62 年 4 月 1 日 浜松医科大学講師

昭和 63 年 1 月 1 日 静岡県立総合病院医長

平成元年 4 月 1 日 浜松医科大学講師

平成 3 年 5 月 1 日 今村医院院長

平成 11 年 2 月 1 日 聡伸会今村医院理事長

至 現 在

平成 9 年 4 月 1 日 板橋区医師会理事

平成 11 年 4 月 1 日 板橋区医師会副会長

平成 15 年 4 月 1 日 板橋区医師会監事

平成 15 年 4 月 24 日 東京都医師会監事

平成 16 年 6 月 24 日 東京都医師会理事

平成 18 年 4 月 1 日 日本医師会常任理事

平成 24 年 4 月 1 日 日本医師会副会長

至 現 在

特別講演Ⅱ

「過重労働対策の現状と健康配慮義務」

講師／任天堂株式会社 本社開発棟 人事本部 人事部
総括産業医 薬剤師 労働衛生コンサルタント 古海 勝彦

最終学歴

昭和 61 年 長崎大学薬学部薬学科 卒業
平成 4 年 産業医科大学医学部 卒業

ご経歴

平成 4 年 産業医科大学医学部 第 3 内科 入局
平成 7 年 財団法人九州産業衛生協会 診療所長
平成 9 年 株式会社 岩田屋 産業医（健康管理室長）
平成 14 年 産業医科大学医学部 医療科学講座 助手
平成 15 年 日本郵政公社 九州支社 健康管理室 室長
平成 19 年 日本郵政株式会社 九州郵政健康管理センター
熊本分室 室長
平成 27 年 財団法人 福岡労働衛生研究所 産業医
平成 29 年 5 月 任天堂株式会社 本社開発棟 総括産業医
至 現 在

ご資格

医師免許、薬剤師免許、労働衛生コンサルタント

MEMO